宿泊統計
延べ泊数

26県が震災前下回る

7～9月 観光回復遅れる地域も

観光庁は12月14日、宿泊旅行統計調査の2012年7～9月分の結果（暫定値）を発表した。延べ宿泊者数は1億2288万人泊で前年同期比が2・7％減、東日本大震災発生前の前々年同期との比較では0・2％減だった。47都道府県のうち26県が震災前の水準を下回っている。一部地域ではビジネス目的の宿泊需要に比べ、観光目的の宿泊需要が大きく落ち込んでいるとみられる。

延べ宿泊者数を月別にみると、7月が3693万6千人泊で前々年同期比2・1％減（前年同期比2・9％減）、8月が5069万4千人泊で同1・2％増（同1・5％減）、9月が3525万5千人泊で同増減なし（同4・1％減）だった。年間の宿泊客の50％以上が観光を目的にした客である宿泊施設に限ると、前々年同期比の推移は、7月が5・4％減、8月が2・6％減、9月が3・9％減と全体の結果に比べてマイナス幅が大きくなっている。

都道府県別では、秋田県の減少が目立つ。延べ宿泊者数が93万5千人泊で、前々年同期比が35・7％減、前年同期比が32・3％減だった。観光目的の宿泊客が50％以上の宿泊施設に限って7～9月の各月の動向をみると、前々年同期比で50％前後の減、前年同期比で40％台の減で推移している。7～9月期の回答数は1万8100施設。

福島県、宮城県、山形県、茨城県なども観光目的の宿泊需要は引き続き厳しい。延べ宿泊者数全体では、復興関連のビジネス目的の宿泊需要などに支えられているとみられるが、観光目的の宿泊者が50％以上の宿泊施設の回復が遅れている。

延べ宿泊者数のうち外国人は658万人泊で、全体に占める構成比は5・4％。前年同期比で35・2％増となったが、前々年同期比では12・9％減だった。震災前の水準まで回復したのは15府県にとどまっている。

客室稼働率は全国平均が58・4％。施設のタイプ別には、旅館が39・9％、リゾートホテルが57・8％、ビジネスホテルが70・3％、シティホテルが75・7％だった。

宿泊旅行統計調査は、従業員数10人以上の宿泊施設はすべて、10人未満の宿泊施設は抽出して調査し、全体数を推計している。7～9月期の回答数は1万8100施設。

「観光目的の宿泊者が50％以上」の施設の延べ宿泊者数の増減 ＝東北と関東の一部＝

	前年同月比（%）			前々年同月比（%）		
	7月	8月	9月	7月	8月	9月
青森県	−19.2	−10.4	−12.4	−15.7	−5.3	−6.8
岩手県	−15.6	−13.9	−7.3	−3.3	−7.8	−6.5
宮城県	−10.1	0.7	−3.0	−13.6	−19.5	−9.3
秋田県	−45.3	−46.5	−46.6	−55.1	−49.2	−51.8
山形県	−6.8	−10.8	−12.4	−12.1	−13.7	−16.0
福島県	−19.2	11.2	25.5	−27.6	−31.7	−16.4
茨城県	20.7	22.9	22.7	−27.0	−30.9	−13.2
千葉県	7.6	3.1	−0.1	−14.2	−13.3	−13.6

2012年7～9月　延べ宿泊者数

単位：人泊、％　※）宿泊目的割合不詳を含む

施設所在地	延べ宿泊者数※	前々年同期比	観光目的の宿泊者が50%以上	観光目的の宿泊者が50%未満	うち外国人延べ宿泊者数	前々年同期比
全国計	122,884,270	−0.2	66,119,660	56,708,250	6,580,260	−12.9
北海道	9,236,170	2.4	5,658,830	3,573,040	569,920	−17.9
青森県	1,338,300	−5.8	494,520	843,780	11,070	−35.6
岩手県	1,658,900	8.8	813,890	844,580	8,390	−53.5
宮城県	2,642,560	−0.6	1,022,290	1,620,280	23,650	−60.8
秋田県	934,510	−35.7	450,570	483,950	5,000	−72.6
山形県	1,630,750	−4.7	855,100	775,640	10,700	6.3
福島県	2,790,780	−8.1	1,416,230	1,368,840	10,120	−67.3
茨城県	1,376,840	−0.2	439,140	937,700	21,870	−32.2
栃木県	2,974,110	−3.7	2,329,770	637,850	26,390	−26.4
群馬県	2,527,820	−2.5	1,901,060	623,430	17,350	7.2
埼玉県	1,144,650	11.8	369,410	775,250	32,950	63.0
千葉県	5,349,810	−2.4	3,707,730	1,642,080	488,240	−18.8
東京都	11,613,410	1.0	2,303,840	9,309,570	1,989,670	−14.9
神奈川県	4,502,090	2.2	2,451,500	2,049,720	234,020	2.8
新潟県	3,243,590	9.9	1,971,360	1,272,230	25,470	−5.2
富山県	1,136,710	3.8	647,140	489,570	22,450	−13.7
石川県	2,095,790	9.4	1,163,940	931,850	39,420	−8.1
福井県	1,050,340	−8.7	603,070	446,950	4,910	−16.4
山梨県	2,529,380	−5.3	1,929,780	599,600	121,690	−31.6
長野県	6,302,770	−3.3	5,028,360	1,274,410	52,380	−48.7
岐阜県	1,600,980	−8.3	1,196,630	404,350	54,220	−12.6
静岡県	6,018,650	−2.1	3,973,610	2,036,710	154,130	−19.1
愛知県	3,636,380	−3.1	1,024,080	2,612,290	244,680	−11.3
三重県	2,554,240	9.3	1,670,270	883,970	21,920	−28.8
滋賀県	1,245,240	−6.0	821,620	423,620	21,510	−27.1
京都府	3,968,500	11.5	3,186,640	781,860	537,960	18.2
大阪府	5,981,720	2.0	1,459,250	4,515,730	777,610	−17.6
兵庫県	3,220,050	−4.1	1,800,810	1,419,230	86,530	−22.5
奈良県	754,900	−24.8	732,980	21,920	20,440	−48.0
和歌山県	1,510,860	9.5	1,302,050	208,810	38,270	34.3
鳥取県	915,380	−2.1	508,060	407,320	8,430	−12.7
島根県	729,610	−5.4	359,590	370,020	5,970	54.3
岡山県	1,412,800	11.8	635,380	777,420	18,950	−31.3
広島県	2,140,260	−8.8	686,630	1,453,630	99,310	−21.4
山口県	1,217,390	23.2	575,710	641,570	11,240	−18.7
徳島県	456,660	−15.0	206,320	250,340	6,810	58.4
香川県	1,048,580	21.3	458,100	585,180	11,260	−18.9
愛媛県	989,050	−10.0	351,950	637,110	15,250	9.0
高知県	837,870	−9.2	456,010	380,550	3,040	3.1
福岡県	3,621,690	−1.5	962,970	2,658,720	231,170	27.0
佐賀県	713,220	1.6	383,410	329,800	8,470	−20.7
長崎県	1,701,820	6.0	864,080	824,910	80,440	−23.0
熊本県	1,841,890	0.9	963,830	878,060	71,460	26.9
大分県	1,658,490	5.1	1,002,400	655,920	64,090	−40.4
宮崎県	754,390	7.6	210,870	543,440	12,320	27.7
鹿児島県	1,771,610	6.5	935,180	836,430	35,370	32.3
沖縄県	4,502,810	−0.9	3,833,760	669,050	223,780	28.8

地域観光

体験型観光の現場 〈323〉

食の視点で産業間連携を

広島湾のカキの養殖棚

衆議院選挙は自民党の大勝となった。自民党の首脳陣は口をそろえて、民主党への失望であって決して我が党が信頼を得ているとは言い難いと述べる。過去は「郵政民営化」や「消えた年金」「無駄な公共事業」などと絞り込みやすい争点であったが、今回は「原発問題」「憲法改正」「消費税増税」などあまりにも課題が多く、今まで以上に極めて重要問題にもかかわらず、争点ボケの感は否めない。また、少数政党の乱立とも言うべき事態にはっきりとした選択肢とはなり得なかった。どの党が政権をとろうと問題は山積している。失われた二十数年が継続せず、新しい年とともに、国政も新しく未来に向かう年にしたい。

同時に地方の課題も待ったなしである。過日は、大学で体験型観光の重要性と農山漁村生活体験の有効性について講義をする機会があり、現在の日本の社会背景の中で必然的な教育システムであり、地域振興策で減、野菜6％減、肉類9％増だという。欧米化の波が多くの国民が体験すべき時代となった。広島湾ベイエリア海生都市圏研究協議会主催の「体験観光フォーラムin江田島」が開催され現地を訪ねた。カキ生産日本一の呉市に続き、第2位の江田島市を訪れたならば、全ての人がおいしいカキを食べて、その料理方法を習得させる機会が必要であり、魅力ある体験交流プログラムの主力商品となるはずである。1次産業と流通販売と観光サービス業が1つのテーマでつながり、未来を拓く。

（体験教育企画代表・藤澤安良）

（環太平洋連携協定）の問題に先駆けて国内が変わっていく道筋を付けたい。

民泊などの農山漁村生活体験を学校教育のみならず多くの国民が体験すべき時代となった。広島湾ベイエリア海生都市圏研究協議会主催の「体験観光フォーラムin江田島」が開催され現地を訪ねた。カキ生産日本一の呉市に続き、第2位の江田島市を訪れたならば、全ての人がおいしいカキを食べて、その料理方法を習得させる機会が必要であり、魅力ある体験交流プログラムの主力商品となるはずである。1次産業と流通販売と観光サービス業が1つのテーマでつながり、未来を拓く。

（体験教育企画代表・藤澤安良）

横綱白鵬が観光大使

大分・宇佐市 魅力PRを期待

大分県宇佐市はこのほど、横綱白鵬を「市観光交流特別大使」に委嘱した。同市は白鵬の知名度を生かし、市の魅力をPRしてもらうことで、観光客が増えることを期待している。

白鵬は、地元出身で「昭和の大横綱」と言われた双葉山を尊敬していることを公言。双葉山の生誕地に整備された観光交流施設「双葉の里」などをたびたび訪れていることから、同市の知名度が向上し、観光客増加につながっている。

今回は「日本・モンゴル外交関係樹立40周年記念行事」と双葉山生誕100年記念の巡業「大相撲宇佐場所」のため同市を訪れた。記念式典で是永修治市長が白鵬に特別大使の委嘱状を手渡した。

白鵬は同市のほか、徳島県や北海道滝川市、宮城県大崎市、鹿児島県霧島市でも「観光大使」を務めている。

北陸 冬のキャンペーン メディアに魅力紹介

JR各社と北陸3県が展開している「Japanese Beauty Hokuriku」（ジャパニーズビューティー北陸）キャンペーンの現地取材会が12月13～15日に開催された。首都圏と関西地区のメディアに北陸の観光資源をPRした。

同キャンペーンは、JR東日本、JR東海、JR西日本の3社と富山県、石川県、福井県が2013年3月31日まで共同で展開している。今年が8回目。

交通アクセスでは、首都圏からの往路には東海道新幹線と特急しらさぎを利用して福井に入り、復路は富山から特急はくたかと上越新幹線を利用する行程。関西圏からは特急サンダーバードを利用して往復する行程を提案した。

2014年度末には北陸新幹線が開業する。金沢開業後に東京～金沢間が約2時間30分、東京～富山間が約2時間7分となる直通運転と時間短縮の効果などをアピールした。

取材会では福井県が、東尋坊の食べ歩きクーポン、越前ガニ釜揚げの見学、永平寺の座禅体験、あわら温泉の旅館「美松」の露天風呂付き客室などを紹介した。

金沢の金箔工芸体験

石川県は、金沢のボランティアガイド「まいどさん」による長町武家屋敷界隈や兼六園の散策を提案。他にも石川県観光物産館での和菓子手づくり体験、ひがし茶屋街での金箔工芸体験をPRした。

富山県では、世界遺産の五箇山、こきりこ踊りを説明。富山市内では富山湾で水揚げされた魚介類を使ったにぎり鮨を手軽に楽しめる企画「富山湾鮨」や製薬会社「廣貫堂」が運営するカフェの薬膳スイーツについて紹介した。

北陸3県では北陸新幹線金沢開業をにらみ、JRグループのデスティネーションキャンペーンの誘致も進めている。

スノーマンをビル壁面に照射

大阪・梅田でイベント

大阪・梅田地区55施設でスノーマンの装飾やイベントなどを行う「梅田スノーマンフェスティバル2012」が11月23日から12月25日まで行われた。12月14日には光のアート「スノーマンライティング」の点灯式が阪急うめだ本店9階祝祭ひろばで開かれた。

梅田地区の新たな魅力づくりに取り組む梅田コネクションプロジェクトの一環として実施。主催は梅田地区エリアマネジメント実践連絡会（JR西日本、阪急電鉄、阪神電車、グランフロント大阪TMO）と大阪市などで構成する実行委員会。

点灯式にはJR西日本の真鍋精志社長、阪急電鉄の角和夫社長、阪神電車の藤原崇起社長らのほか、来賓として大阪市の村上龍一副市長が出席した。点灯ボタンを押すと、梅田阪急ビルオフィスタワー北側壁面にスノーマンが照射された＝写真。

スノーマンライティングは、最大で約30㍍×20㍍のイラストが照射され、ビルの頂上部も点灯する光のアート。スノーマンがストーリーに沿って登場し、さまざまな場面が展開される。

セグウェイツアーが千葉・館山で人気に

市が観光活用で社会実験

千葉県館山市は12月から、市内の動植物園「南房パラダイス」で、電動立ち乗り2輪車「セグウェイ」によるガイドツアーの社会実験を実施している。珍しい乗り物のため、12月9日現在ですでに約300人が参加する人気ツアーになっており、市ではツアー参加者の意見を基に、観光分野への活用の可能性を探ることにしている。

セグウェイは体重移動で速度や方向の調整が簡単にできるため、健常者だけではなく、障害者や高齢者の移動手段としても注目されている。また、車体が小型で、市街地で使っても渋滞を引き起こさないため、将来は観光分野での利用のほか、通勤や警備などでの利用も想定されている。茨城県つくば市でも観光ツアー実験が行われている。

千葉・南房総を代表する観光地の館山市では、2年前から試乗会を開催。試乗者に好評だったことから、広い敷地を持つ南房パラダイスを実験会場にして、観光分野にセグウェイが生かせるか本格的な実験を始めた。

今回の実験では、レンタルで5台を用意。参加者は乗車講習の後、ガイドから園内の説明を受けながら、30分程度遊歩道を巡る。終了後、アンケートに回答する必要がある。料金は市の社会実験事業のため無料。

実験は3月31日まで年中無休で実施する。原則予約が必要。問い合わせは南房パラダイス管理事務所☎0470（28）1511。

12月1日に始まったセグウェイを利用したガイドツアーの様子

JAPAN SPECIALIZED NEWSPAPERS ASSOCIATION
あらゆる産業分野から厳選された専門新聞・通信社が加盟
読者総数 1,200万人
公益社団法人 日本専門新聞協会
平成24年4月1日、公益社団法人になりました。
〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-2-12 第2興業ビル
TEL03-3597-8881 FAX03-3508-8888
www.senmonshinbun.or.jp/

九州から観光立国の推進を

[博多]
プレジデントホテル博多
[柳川]
御花
[唐津]
唐津シーサイドホテル
[嬉野温泉]
和多屋別荘
嬉野観光ホテル大正屋
萬象閣敷島
[小浜温泉]
和のやど湯のやど春陽館
[長崎]
稲佐山観光ホテル
矢太樓・矢太樓南館
[雲仙温泉]
九州ホテル
雲仙宮崎旅館
[平戸千里ヶ浜温泉]
ホテル蘭風
[平戸温泉]
平戸海上ホテル
[熊本水前寺温泉]
熊本グランドホテル佳松園
[別府温泉]
ホテル白菊
おにやまホテル
悠彩の宿　望海
ホテル別府パストラル
[湯布院温泉]
由布院ことぶき花の庄
湯めぐりホテル山光園
日の春旅館
[杖立温泉]
杖立観光ホテルひぜんや
[天草松島温泉]
松島観光ホテル岬亭
[阿蘇内牧温泉]
阿蘇プラザホテル望蘇閣
阿蘇ホテル一番館・二番館
[山鹿温泉]
山鹿温泉清流荘
[人吉温泉]
清流山水花　あゆの里
[湯の児温泉]
ホテル湯の児海と夕やけ
[青島温泉]
青島グランドホテル
[鹿児島温泉]
城山観光ホテル
[霧島温泉]
霧島山上ホテル
霧島観光ホテル
[指宿温泉]
ホテル秀水園
指宿海上ホテル
指宿シーサイドホテル
[屋久島]
田代別館
シーフォレスト
除菌装置保有バス会社
福岡　西鉄観光バス
佐賀　マリン観光バス
長崎　長崎ラッキーバス
熊本　九州産交観光
熊本　中九州観光バス
大分　日豊観光バス
大分　大分交通
宮崎　みやざき高山観光バス
鹿児島　さつま交通
鹿児島　南国交通観光
屋久島　まつばんだ交通
九観連 九州観光旅館連絡会 安心してお泊まりいただける九州・沖縄の一流ホテル・旅館の予約センター http://www.kyu-kan.net
九観連 KYUSHU RESERVATION CENTER
本部 TEL:06-6531-7101 FAX:06-6531-7283 info@kyu-kan.com
札幌 TEL:011-242-4571 FAX:011-242-4581 sapporo@kyu-kan.com
仙台 TEL:022-266-4426 FAX:022-266-4428 sendai@kyu-kan.com
東京 TEL:03-5298-7001 FAX:03-5298-7002 tokyo@kyu-kan.com
名古屋 TEL:052-582-9131 FAX:052-583-0330 nagoya@kyu-kan.com
北陸 TEL:076-224-1801 FAX:076-222-7299 hokuriku@kyu-kan.com
大阪 TEL:06-6533-1131 FAX:06-6531-1388 osaka@kyu-kan.com
岡山 TEL:086-233-7141 FAX:086-233-7143 okayama@kyu-kan.com
広島 TEL:082-244-2841 FAX:082-244-2844 hirosima@kyu-kan.com
福岡 TEL:092-471-7854 FAX:092-471-7865 fukuoka@kyu-kan.com